

# 平成十五年度卒業論文題目

## 日本文学科

- 役割語の研究―マンガの中のことば―  
 北杜夫『榎家の人びと』論―登場人物の幼少期を中心として―  
 翻訳史を通してみるウィリアム・ブレイク『虎』  
 白峯―秋成の人間追究  
 擬音語・擬態語の男女間における使用差  
 吉本ばなな『キッチン』―みかげの『孤独と回復』―  
 三島由紀夫『卒塔婆小町』論―〈俗悪〉への軽蔑と憧れ―  
 よしもとばなな作品に自分を見出す若い女性読者  
 ↳『キッチン』を中心に―  
 『砂の女』における表現について  
 『堤中納言物語』―童・幼い姫君の活躍―  
 『源氏物語』の夢分析  
 岡本かの子『老妓抄』―「華やぐいのち」とは  
 「古事記」における食の献上と服属の関係性  
 樋口一葉『たけくらべ』―浮かび上がる不気味さ―  
 「貴様」の変換と、その他の人称代名詞と敬意  
 コト名詞句の研究  
 公共図書館におけるこれからの情報提供と役割  
 ―生涯学習とビジネス支援を中心に―  
 現実の「小男」理想の「一寸法師」  
 時の副詞の意味と機能―「まもなく」と「やがて」を中心に―  
 近世の香り  
 井上靖『闘牛』論―津上・さき子の〈賭け〉を中心に―  
 『聞上手』からみる笑い話のつながり  
 大学図書館におけるOPACの項目の分析

一色 理絵  
 小宮 真美  
 鈴木 麻依  
 大澤 優子  
 赤瀬 蘭  
 秋山 美保  
 浅川 史  
 荒井 瑛美  
 荒川 寛子  
 飯塚 涼子  
 池上 彩子  
 池田 美亜  
 池葉 恵子  
 石井 由紀子  
 石川 美穂  
 石黒 綾子  
 石毛 里英  
 石田 良子  
 板倉 美香子  
 井谷 麻衣子  
 市川 綾子  
 市野 利佳  
 伊藤 美和子

- 平安文学における「酒」の在り方  
 ↳神祕たる酒に込められしものゝ  
 日本版・西洋版『灰かぶり』にみる母と娘の関係  
 変遷する男性主人公像『落窪物語』↳『源氏物語』  
 「鬼」になった女  
 『晚菊』↳〈老い〉がもたらしたものの  
 ライオンから獅子へ―その日本的享受と変容―  
 花の面影―十市皇女挽歌に見る「山吹」をめぐる―  
 宮崎県都城方言と現代の文木表現について  
 江戸の化粧―白粉化粧  
 芭蕉の感じた日本の「しずけさ」について  
 『あめりか物語』論―亜米利加三界の日本人―  
 『発心集』から探る長明の心  
 田村俊子『彼女の生活』―自己の魂を取り戻すための戦い―  
 学校と著作権  
 ―コンピュータの普及、インターネットを中心に―  
 伊藤整・その自意識  
 ―『雪明りの路』『若い詩人の肖像』にみる青年像―  
 北九州市小倉方言における語彙・文法の変遷  
 大江健三郎『万延元年のフットボール』論  
 ―本当の「新生活」の意味―  
 『新古今和歌集』成立の背景について  
 ―後鳥羽院の撰集意識をもとに―  
 『こころ』論―先生の自裁とは―  
 キレイのカタカナ表記  
 狂言大名がもたらす「笑い」の要素  
 『千と千尋の神隠し』と名前  
 山田詠美論―見られる子ども像―  
 中世における小野小町伝承  
 「形式化した名詞」と名詞を含む慣用表現

稲川 晴美  
 井上 明子  
 今井 美穂子  
 内倉 知香  
 海野 綾子  
 榎本 佳緒理  
 王 汝華  
 大石 とも子  
 太田 千恵  
 大橋 佳菜子  
 大橋 敬子  
 小川 奈々  
 小口 由美  
 尾崎 真奈美  
 小野寺 直子  
 片山 瑛莉奈  
 河野 頼美  
 木下 えりか  
 木下 翠  
 熊谷 麻里  
 倉間 紗智子  
 光野 美也子  
 小林 亜香里  
 齋藤 奈央子  
 榊 真麻

「形式名詞」の定義をめぐって―

教材としての『こゝろ』論

十和田市における方言の残存と衰退の研究

―語彙から見た南部弁―

武者小路実篤『お目出たき人』―〈自分〉にとっての恋愛―

中原中也における〈自然〉―魂の不在による生への欲求―

江戸文化における遊廓と三味線

和菓子屋号の分類

中国古代の刺客とテロリスト

学校図書館の活用をめざして

樋口一葉『十三夜』―お関にみる明治女性の結婚―

学校図書館の資料収集と知る権利の保障

『たけくらべ』の西義性

―水仙の作り花―はなぜ造花であったのか―

西行説話の多面性とその背景

林芙美子『晩菊』―きんにとつての〈古い〉―

田地文子『女坂』―家父長制の中の倫の一生

安房直子作品における〈色彩〉の役割

『雨月物語』―蛇性の姪―論

―原典との比較から考える豊雄と真女子―

『或る女』論

―ジェンダー的視点からみる早月葉子破滅の理由

東京下町方言の音声調査

翻案・二次創作『水滸伝』に見る「日本」的な視線

翻案小説としての『伽婢子』『牡丹灯籠』

萬葉から平安女流文学へ〈女歌〉怨恨表現の変化

井上靖『しろばんば』―洪作の自己形成を追う―

新潟県五泉市における格助詞「から」の用法について

『銀河鉄道の夜』『初期形』と『最終形』の相違

松尾芭蕉の発句から見る食表現

『曾根崎心中』論

絵本におけるオノマトペ―表現することば―

源氏物語と大人世界

漫画のオノマトペの研究

平安和歌文学における「身」と「心」

『世間胸算用』におけることわざの役割

コミュニケーション行動の様相

『おくのほそ道』虚構から見る芭蕉の想い

流行歌謡にみるカタカナ語・英語

張遼の魅力―『三国志』各種メディアを通じて―

「百人一首」に秘められたメッセージ

詩絵から見る古典文学

『雪国』論―駒子の〈美〉をめぐって

一〇〇人の敬語に対する意識調査

若者のポジティブ・ポライトネスの試み

萩原朔太郎の詩―『青猫』における〈桜〉の意味

明治期における段落表記の受容

―改行一字下げ段落表記を巡って―

『源氏物語』における「薫像」

行為要求のストラテジー

梶井基次郎『檸檬』における「生の不安」

平安文学における「老人」と「子ども」について

三島由紀夫『金閣寺』―〈美〉の変化の末にあるもの

心に残るキャッチコピーとは

―広告におけるキャッチコピーの語学的調査

『源氏物語』から探る紫式部―物語に込めた「思い」を中心に―

『桂中將』に見る荒木田麗女の古典趣味

秋成が「浅茅が宿」で書こうとしたもの

『こゝろ』―「静」が与えた影響―

『それから』論―長井代助と〈自然〉の行方―

坂本結香  
桜田菜津子  
佐々木彩夏  
佐藤奈央  
佐藤夏子  
佐藤菜穂子  
澤田由実子  
下津あゆみ  
須賀裕子  
杉山英里  
鈴木麻純  
須藤育子  
清田麻美  
関恵  
高島亜由美  
高寺絵美子  
高橋多恵子  
高橋佑季  
高松美央  
田尻英美  
多々納優佳  
福士織絵  
田巻さゆり  
田牧碧  
田村妙子

土屋萌子  
東城有美  
遠間倫世  
豊田祥子  
中原裕子  
長洲絵美  
名古屋美妃  
西山絵梨子  
野中桂子  
野中由香子  
荻原直子  
橋詰恵  
畠山潤子  
畑瀬由美  
原絵里子  
福井智実  
福井菜央子  
藤井美和  
藤田早紀  
布施良美  
古郡まゆ子  
古谷典絵  
堀尾七恵  
堀尾彰子  
本多鏡華  
本間歩  
松岡宏美

忌み名と諱・実名敬避俗本邦固有に関する疑問・女性ファッション誌が映す時代・ストリートの主張・繰り返される物語	松澤 深久美	明治から戦後におけるひらがなカタカナ教育「これからの敬語」と「現代社会における敬意表現」の比較皇后の歌	和田 麻美
―よしもとばなな作品は単なるメロドラマか―	黛 木綿子	―萬葉集巻二「相聞巻頭における磐姫皇后歌群四首の意味」―	飯高 広恵
『雨月物語』論―「吉備津の釜」に見る女性像―	水谷 梢	「されどわれらが日々」における若者の青春藤原兼家・史実に隠された実像	篠宮 千恵
新演劇と東京語・100年前のレコードからわかること	水口 智子	『浮世風呂』における江戸語の疑問文	竹野 美香
『竹取物語』における「かぐや姫」	峯 あゆみ	『雨月物語』「菊花の約」に於ける信義の研究	中西 織江
―その神秘性の帰結するところ―	宮崎 美由紀	史学	西村 綾
文学にみられる相統形態―配偶者の法定相統分の変化―	宮嶋 知寿三	粘土板に記された条約―ヒッタイト帝国の外交政策―	池田 英梨
恋川春町『無益委記』論	宮鼻 友香	初期ルネサンスと絵画	高橋 伸佳
産女―境界にたたずむもの―	宮原 由希	―マザッチオに見るルネサンス美術の変化―	高寄 尚子
「あすなろ」に込めた井上靖の思想	村田 直子	東京市における米騒動―新聞記事にみる東京市の米騒動―	渡邊 郁子
『本朝校陰比事』にみる西鶴	矢上 日子	演劇改良と演劇の商業化	浅沼 公恵
非外来語のカタカナ表記に関する実態と意識	矢口 亜津子	日本人知識人の観た上海	荒井 千賀子
―雑誌・アンケート調査をもとに―	矢口 祐子	近世民衆の紋章文化とその地域性について	石井 多祈
中世寺院における稚児と稚児物語	八下田 真美	狩野晴川院養信の日光社参り日記と地取に見る晴川院の視点	石川 聡美
―稚児物語『あしびき』の再考―	山下 奈穂子	ロマネスク彫刻と森	伊藤 陽子
近代における終助詞「かしら」の研究	山本 沙枝	中世における荘園の年貢算用と目銭	井倉 由紀子
『風姿花伝』「第七刷紙口伝」より「男時・女時」論	山本 知佳	―加賀国軽海郷の事例を通して―	岩政 さやか
海外日本語学習者に対するネット上読解教育支援の考察	山本 由紀子	江戸の町における裏店層の女性たち	上崎 あゆ
良寛の書―その魅力―	横尾 紗恵子	労働刑から見た秦漢時代の社会支配に関する一考察	大泉 敦子
公共図書館におけるマーケティング	吉田 泉	―刑徒の処遇をめぐって―	大友 香
怪物退治譚考察―英雄と怪物の両義性と変化―	吉原 梨花	明治天皇巡幸に見る近代天皇制と被差別部落	大森 章
表象としての「雲」の機能―萬葉歌に見る靈魂の姿―	余西 香奈子	―『佐佐木高行日記 保古飛呂比』から読み解く	小川 範子
携帯メールの日本語	渡邊 綾子	古代中国の冶鉄技術―春秋戦国時代のワイゴの発明を通して―	
金子みすゞ論―多様な解釈から伝わる「やさしさ」―	渡辺 陽子	外食産業―販売・屋台見世―を通して見た江戸時代教育勅語の草案と儀式化	
『うたかたの記』における「狂気」			
―狂える魂たちの伝えしこと―			
空間・時間・数の把握における前後関係の意味研究			
永遠と途―萬葉集巻三・四一六番歌大津皇子考			

W・M・ヴォーリズと共同理想郷（神の国）づくり

ハプスブルク帝国末期におけるトランシルヴァニア問題

足利将軍家と刀

フランスにおけるアルジェリア移民

大英博物館とエルギン・マーブル

—文化財とアイデンティティをめぐる—

明治期における千葉県の農会—『印旛郡農会報』を中心として

世田谷区における庚申信仰について

天智天皇の外交政策

教育制度から見たドイツ統一—歴史教育と国民意識—

実業家渋沢栄一と『徳川慶喜公伝』—伝記編纂の背景と意図—

千住宿の飯盛女について

征西將軍宮懷良親王の九州経略

壁から見るボンペイ社会

商鞅変法から見る人々の生活

中世シチリア王国の文化

コーヒーハウスとジャーナリズム

明治維新と稲荷信仰

—浅草寺と下谷稲荷神社に見る明治維新の影響—

都市アテナイの女神アテナ—男と女と女神—

「御座替り祭」を通してみる筑波山神社

—近世の「御座替り祭」を巡る争い—

EUの東方拡大に伴う東欧諸国の経済体制の変化について

「君台観左右帳記」の成立とその存在意義

第一次日中民間貿易協定調印における高良とみの価値

世渡りとパンチ精神—道化が開けた風穴—

中世東寺の供僧と荘園—矢野莊を通して—

江戸期における男色のあり方

「日朝民俗学」における歴史的考察

『玉川流域絵図』に関する基礎的研究

長田 麻矢子

小澤 祥子

片桐 菜津子

金子 絵理香

金森 都

川崎 智子

木村 瑞紀

小泉 萌子

越田 はるか

小林 奈緒子

小林 菜々

小山 香織

齋藤 理香

酒井 智子

酒田 百合子

佐々木 彩

佐々木 嗣美

佐藤 優佳

重田 由華

鈴木 夏未

鷺見 綾子

関 晴美

芹沢 充恵

曾根 真貴子

渡辺 麻紀子

高山 しおり

田原 麻美

戦国期における村上氏の実態

江戸の色彩から伺う日本人の美的感覚について

船橋市西図書館所蔵「下総之国図」に関する基礎的研究

デンマーク・ドイツ国境線画定について

—住民投票と民族意識—

商租権問題と満州鉄道問題からみる満蒙問題

日本中世における朝儀と芸能—衛府の変遷と奏楽の発生より—

前近代における日本人の国土観と

災害観に関する歴史地理学的研究

古琉球時代の日琉関係

魔女狩り なぜ魔女は女性なのか

幕末山村における女性・子供の動きについて

—儀三郎日記を読んで—

「御所千度参り」に関する考察

二十世紀の定義

—西欧社会における二十世紀、その激動の変遷百年を

考察する—

日本近代における天皇制の確立と浸透について

十八世紀、イギリスにおける民衆教育

—慈善学校・日曜学校を中心に—

中世洛中の建築空間

鉄道建設と沿線・会社・国—日本鉄道高崎線を例に—

中国の少数民族を識別工作から考える—基諾族を例にあげ—

茶の湯の家元制度

中世の合戦における扇—旗との比較において—

河井継之助の遊学と藩政改革

平安時代の化粧と美意識

精神分析と夢—夢解釈におけるフロイト批判—

ラテン・アメリカ奴隷制の温情説と反対意見

ジェンダーの視点から見る戦後フランスにおける女性移民

玉井 涼子

田村 朋子

千鳥 絵里

千代田 尚子

辻 陽子

堤 知亜紀

鶴貝 好子

寺上 純代

寺田 美由紀

中野 亜弥

長澤 翔子

橋本 ひとみ

服部 仁実

羽鳥 美和子

埴 知亜紀

浜田 麻美

平田 智子

深作 紋子

藤井 麻衣子

藤原 めぐみ

前原 佑貴子

松原 聡子

三沢 香奈子

水野 良子

中国西北における馬氏勢力に関する一考察 — 青海省の馬歩芳を中心に —	光 永 みどり
秀吉没後の高台院	宮 田 万里子
室町時代の蹴鞠と飛鳥井家	宮 原 淳 子
スイスにおける四言語体制の現実と言語対策	宮 本 美奈子
『百鬼夜行絵巻』における室町時代の妖怪観	村 上 奈 緒
『伊勢大和金毘羅道中日記帳』から見る江戸時代の民衆の旅	村 越 志津香
江戸時代に行われた動物見世物とは どのような娯楽であったのか	森 田 真 美
ユダヤ人音楽家—時代を越えて受け継がれる音— 本能寺の変と公家社会	矢 島 由香子
江戸時代後期の藩専売諸類集	山 田 純 可
—『旧幕府引継書』天保撰要類集を読んで—	山 田 裕 子
シルクロードの交易について	湯 上 恵利佳
十六世紀〜十八世紀のフランス上流階層食文化	雪 吉 さおり
古河市兵衛と初期の古河財閥の鉱山経営について	若 土 千 鶴
中世イングランドのフットボールから 現在のサッカーに至るまで	渡 邊 悦 子
—アマからプロへ—	
『世界史』の中の日本思想と民族問題	渡 辺 規 子
『妙貞問答』にみる、日本人と西欧人の宗教観の相違	松 尾 理 子
プロイセンの近代化政策—オーストリアとの比較から—	土 田 美 穂
只野真葛『むかしばなし』—江戸の園芸という視点から—	今 井 紀 子
マリア・ルーズ号事件と新聞報道	春 原 悠 子
「ユダヤ人絶滅政策」について	山 崎 絵 美